

## 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：中部整備局都市整備課  
担当課長名：筒井 祐治

事業名：名古屋鉄道名古屋本線連続立体交差事業	事業区分：街路	事業主体：岐阜県
起終点：自：岐阜県岐阜市加納 <sup>かのう</sup> <small>（納めて）</small> 至：岐阜県岐阜市下川手		延長：2.1 km
<b>事業概要</b> 名古屋鉄道名古屋本線連続立体交差事業は、境川から新岐阜駅の約2.1 kmを高架化し、12箇所の踏切を廃止するとともに、統合駅を中心とした新しいまちづくりを行い、地域を一体的に整備するもの。		
H 年度事業化	H 年度都市計画決定 （H 年度変更）	H 年度用地着手
全体事業費：288億円   事業進捗率：%   供用済延長：0 km		
計画交通量：台/日		
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 3.4 (残事業)	総費用 (残事業)/(事業全体) /164億円 事業費：/164億円 維持管理費：0/0億円
	総便益 (残事業)/(事業全体) /560億円 走行時間短縮便益：/356億円 走行費用減少便益：/44億円 踏切事故解消便益：/1.7億円 迂回交通減少便益：/158億円 高架下利用便益：/0.74億円	基準年：平成11年
<b>感度分析の結果</b>		
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保（踏切除却12ヶ所） ・都市再生（区画整理等のまちづくりとの連携有り） ・個性ある地域の形成（鉄道により一体的発展が阻害されている地区の解消）		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 岐阜市長が会長である名鉄名古屋本線・各務原線鉄道立体化促進期成同盟会は、岐阜市街地の均衡ある発展と一体的なまちづくりを進めるために、早期事業化について国土交通省への要望活動を実施している（平成15年11月19日）		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 変化なし		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成15年度は都市計画決定図書 <sup>（修正）</sup> の修正事業を実施しており、早期事業化に向け、関係機関との協議・調整を進めることとしている。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 都市計画決定の手続を進めるにあたり、名鉄・JR等との関係機関との協議および、岐阜市が計画をしている土地区画整理事業等との調整に時間を要している。早期事業化に努めたい。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 変更なし		
<b>対応方針</b>		
<b>対応方針決定の理由</b> 名鉄名古屋本線高架事業は、既に完成したJR高架事業と一体となり、県都岐阜市の新たなまちづくりと都市内交通の円滑化のために必要不可欠な事業である。		
<b>事業概要図</b>		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。